

1. 研究課題名	ヒト 社会性の遺伝的基盤の解明
2. 対象者および対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	過去の研究課題名 向社会的行動の心理・神経基盤と制度的基盤の解明 山岸俊男
	2016年11月21日～2018年3月3日までの間に、玉川大学脳科学研究科社会心理実験室で実施された実験にご参加された方
3. 概要	<p>この研究は京都大学、神戸大学、大阪大学、立正大学との共同研究です。ヒトの向社会性を支える遺伝的基盤を明らかにする研究が行われていますが、ヒトの向社会性は社会環境や個人の生活習慣などの環境要因との相互作用の中でダイナミックに変化していくものであるため、遺伝子多型のような一生涯変化しない指標からの説明には限界があります。したがって、より説明力の高い指標を用いて、ヒトの向社会性の遺伝的基盤を明らかにする必要が求められています。そこで本研究では環境からの影響を受け遺伝子のはたらきを調節する役割を担うDNAメチル化というエピジェネティック修飾の一つに注目します。これまで収集してきたDNAサンプルをから約93万カ所のゲノムワイドDNAメチル化データをマイクロアレイ法により解析します。そのような解析を行うことで、環境要因(社会環境と生活習慣)とヒトの向社会性の間を介在するDNAメチル化を明らかにします。</p>
4. 申請番号	TRE23-0046
5. 研究の目的・意義	ヒトが示す高い向社会性を支える遺伝的な基盤を明らかにし、どのような環境要因が遺伝子の働きを促進・抑制するのかを明らかにすることができます。
6. 研究期間	倫理審査委員会承認日～2027年3月1日
7. 情報の利用目的及び利用方法	京都大学に保管されているDNAサンプルを利用し、DNAメチル化のゲノムワイド解析を行います。使用するデータは、個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公開されることはありません。
8. 利用または提供する情報の項目	<ul style="list-style-type: none"> ① 年齢をはじめとしたデモグラフィックデータ ② 取得した心理変数、および行動データ ③ 生活習慣などの質問紙データ ④ 取得したMRIデータ ⑤ 取得した遺伝子データ ⑥ 取得したホルモンデータ
9. 利用の範囲	玉川大学、京都大学、神戸大学、大阪大学、立正大学
10. 試料・情報の管理について責任を有する者	玉川大学脳科学研究所 教授 高岸 治人 京都大学野生動物研究センター 教授 村山 美穂
11. お問い合わせ先	玉川大学 研究推進事業部 研究推進課 Tel: 042-739-8666 E-mail: t.instit@adm.tamagawa.ac.jp